

第24回
子ども・子育て会議
資料

令和6年11月1日

agenda

01 協議事項

- 第3期安平町子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性

02 報告事項

- 子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）進捗報告

03 委員発議

- 福田委員より

04 その他

- こどもまんなか応援サポーター宣言

01 協議事項 第3期安平町子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性

～前回のおさらい～

■期間など

令和7年度～令和11年度の5か年を計画期間とする次期子ども・子育て支援事業計画を令和6年度中に策定する必要がある。

■スケジュール

- ・ 2月子ども子育て会議には、次期計画（案）をお示しさせていただく。
- ・ 案決定後パブリックコメントを実施
- ・ 令和7年3月には、計画決定→各種会議にて報告→道へ提出

01 協議事項 第3期安平町子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性

～前回のおさらい～

■ ニーズ調査、アンケート調査

- ・ ニーズ調査（8月に実施。集計作業中）
- ・ 子どもの権利に関する調査
 - ユニセフ「子どもの権利」学校アンケート調査
 - 文教大共同研究アンケート調査
 - 子どもの権利調査（町独自）

学校・子ども園の先生



アンケートにご協力ください！

CFCI 推進に向けたアンケート調査を実施します。

質問は大きく 2つ です。

インターネットで回答してください！

質問①：子どもの意見を聴くことができていると感じますか？

職場や家庭、地域などで、子どもたちは思っていることを伝えてきていますか？どういったときにそう感じますか？ということをお聞かせください。

安平町の先生たちは、いつも一緒に考えてくれるよね！

質問②：子どもに信頼されていると感じますか？

子どもたちを信頼し、子どもたちから信頼され、対等な関係を築くことができているかどうかをお聞かせください。



アンケートの趣旨

この度、法定の「子ども・子育て支援事業計画」の見直し時期を迎えています。

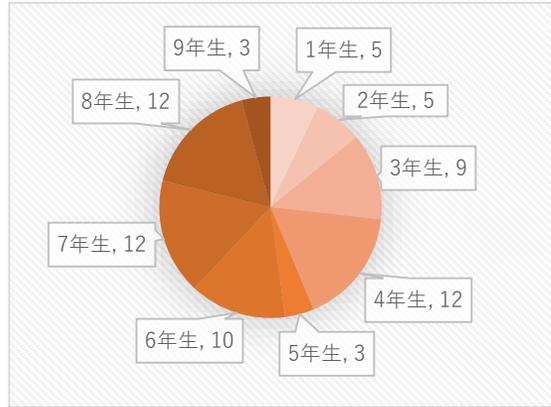
安平町では、日本ユニセフ協会と協働し「子どもにやさしいまちづくり事業」(CFCI) 実践自治体として、同計画で『子どもにやさしいまちづくり』を理念に据え、「子どもにやさしい＝子どもとともに考える」と捉えています。

そこで、日頃から最前線で子どもたちに関わる先生方を対象に、子どもの権利に関する状況を確認させていただきながら、子どもの権利に関する認識を再PRしたいと考えます。

01 協議事項 第3期安平町子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性

■ 子どもの権利に関する調査 子どもの権利調査（町独自）より抜粋

Q1 回答者の属性



Q2 大人たちは、あなたの意見を聞いていますと感じますか？

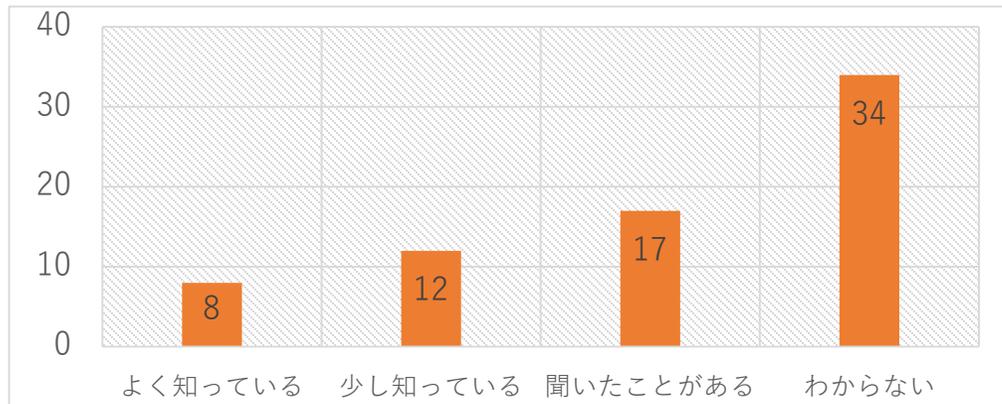


8割以上の子どもが意見を聞いてもらっていると回答。一方で1割弱の子どもが意見を聞いてもらえていないということが明らかとなった。

以下、「あまり」「全く」と思う理由（自由記載）

- 話しても意味がない。
- 感覚的にそう感じるから
- マスクや黙食、我慢ばかりさせるな
- 少し聞いてくれることもあるし、全然聞いてくれない事もあるから。
- 早来学園の校舎が、見栄えはいいが使うのが不便なところがちらほらみられる。つくる前に意見を聞かれていない。
- 押し付けられる

Q3 あなたは、「子どもの権利」や「子どもの権利条約」について知っていますか？



よく知っている、少し知っている割合は、全体の28%。高学年につれて知っている割合が高いことがわかる。

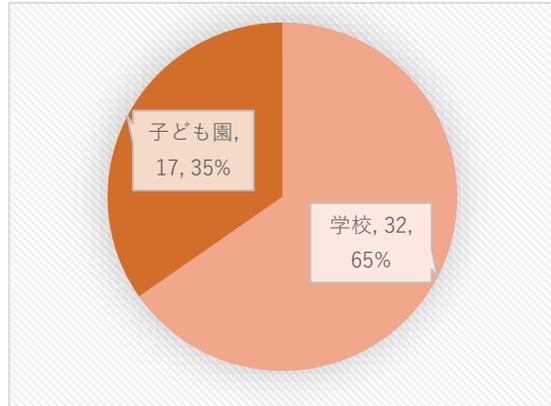
1～4年生：4/31＝12.9%
5～7年生：10/25＝40%
8～9年生：6/15＝40%

→引き続き、CRE（子どもの権利教育）を進めていく必要がある。

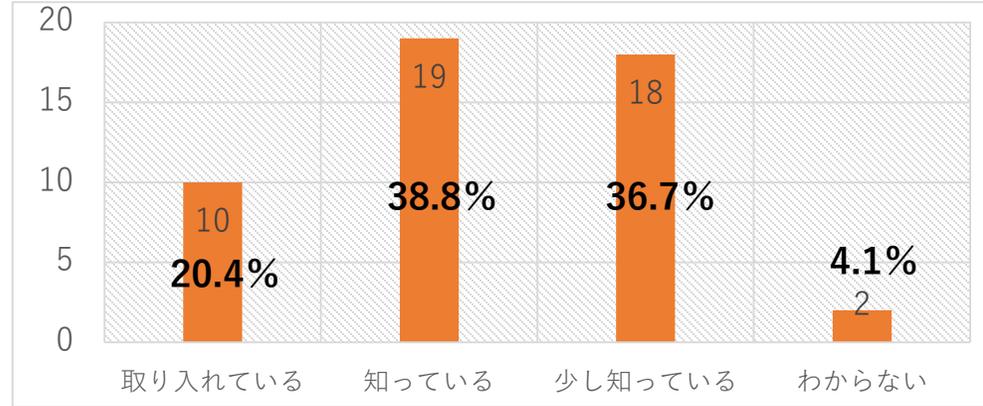
01 協議事項 第3期安平町子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性

■ 子どもの権利に関する調査 子どもの権利調査（町独自）より抜粋 大人版(教育者)

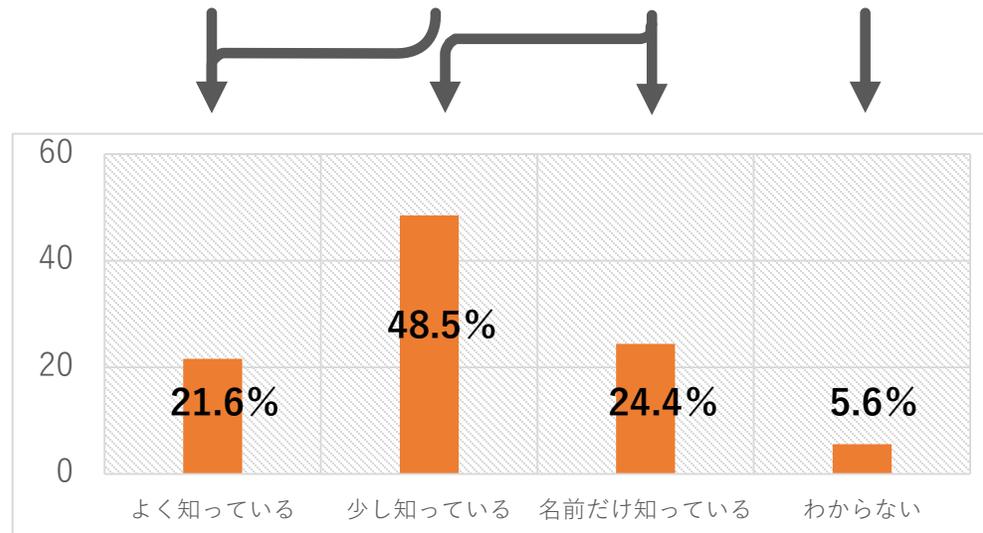
Q1 回答者の属性



Q2 あなたは、「子どもの権利」や「子どもの権利条約」について知っていますか？



➡ 少し知っている割合が町36.7%に対し、全国は72.4%
知っている（取り入れている）が町59.2%に対し、全国21.6%と、安平町の子どもの権利の認識度が全国より高いことが明らかとなった。



→安平町としては、「よく知っている」から一歩進んで「取り入れている」が増えるよう教職員等への理解促進を図っていくことが重要

出典：学校生活と子どもの権利に関する教員向けアンケート調査結果（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）2022年4月

01 協議事項 第3期安平町子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性

～前回のおさらい～

■新たに加える要素

- ・ 子ども家庭センターの設置検討・・・**R7設置予定**
- ・ 病児保育事業の開始検討・・・**体調不良児対応型をベースに設置検討**
- ・ 未就学保育および学童保育の受入者数拡大検討・・・**継続検討**
- ・ 安平町子どもの教育環境条例（仮称）の制定検討・・・**R7作業、R8施行**



次期計画へ反映させる

01 協議事項 第3期安平町子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性

～前回のおさらい～

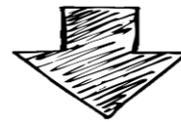
■新たに加える要素

- ・ こども基本法に基づく対応

(こども基本法より抜粋)

【第10条】 都道府県こども計画、市町村こども計画の策定（努力義務）

- 都道府県は国のこども大綱を勘案し、また、市町村は国のこども大綱と都道府県こども計画を勘案し、それぞれ、こども計画を定めるよう努めるものとする（こども計画の策定・変更時は遅滞なく公表すること）
 - 各計画は、既存の各法令（※）に基づく都道府県計画・市町村計画と一体のものとして作成することが可能
- ※ 子ども・若者育成支援推進法第9条、子どもの貧困対策の推進に関する法律第9条等

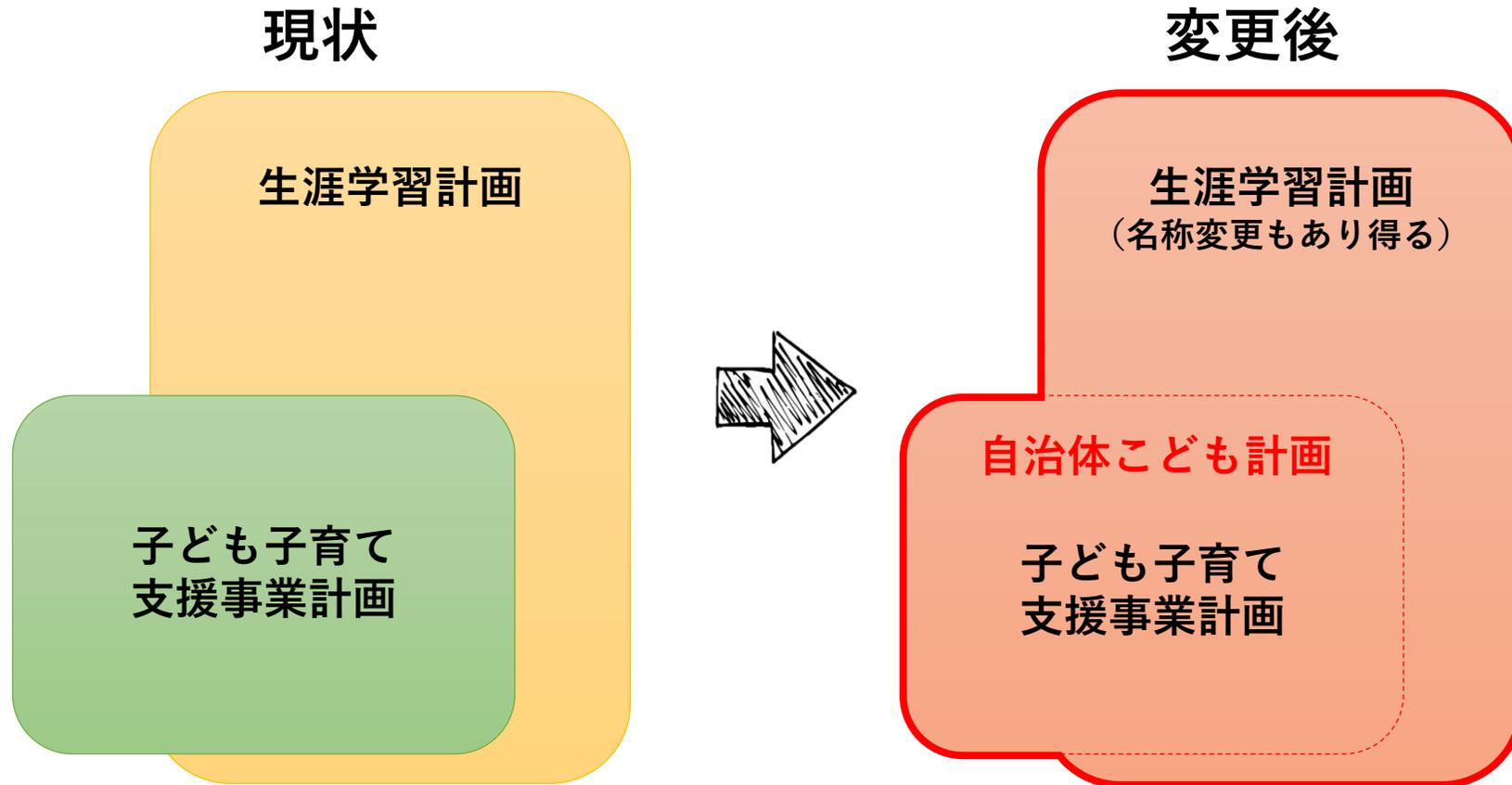


「こども計画」と次期「安平町子ども・子育て支援事業計画」を**一体的**に定める方針

加えて、他に子どもにまつわる**他の計画**についても、**この計画に包含**ができないか検討を進めてきた。

01 協議事項 第3期安平町子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性

生涯学習計画及び自治体こども計画（子ども子育て支援事業計画）の体系について



就学前教育・保育、子育て支援、学校教育のほか
子どもにやさしいまちの理念・考え方など多数重複

横串しで教育～福祉、子どもから大人・高齢者を網羅
策定・更新に係る人的コストも大幅削減に期待

01 協議事項 第3期安平町子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性

▶教育まちづくり100人会議の様子



01 協議事項 第3期安平町子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性

▶参加者・意見数

参加者数 **75** 名
(うち、子ども9名)

意見総数 **434** 件

▶会議で出た意見（抜粋）

みんなが考える日本一の公教育とは？

ここにしかない日本一
自分の好きなことを1つ語れるまち
人が集まって笑顔になる

教育ってなに？～新しいキーワードを考える～

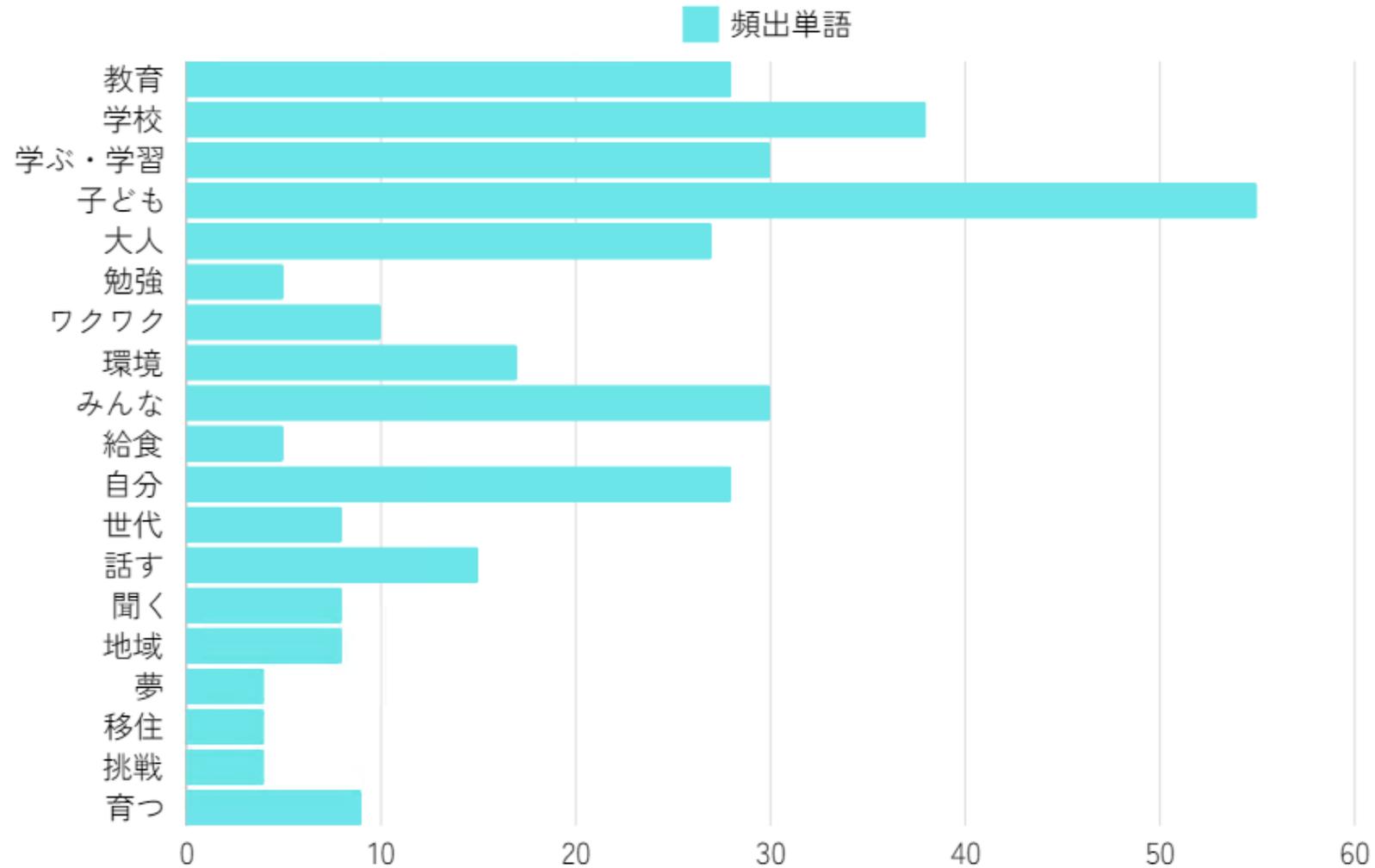
ひとりひとりが好きなこと、得意なことを出来て伸ばせる
「与える」というより環境や機会を「作って開く」イメージ
共育、協育、響育、楽育

自分ができること、やりたいこと

自分から行動する、相手のことを思いやる
日本一の学校・人と人をつなげる
大人がワクワクしている

01 協議事項 第3期安平町子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性

▶会議で出た意見（頻出単語）



01 協議事項 第3期安平町子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性

教育まちづくりPTにおける“仮説”

日本一の公教育とは

豊かな人が育つまち～自分をつくる、自分を生きる～

ということ？

安平町の公教育に埋め込まれた価値観や文化、知識に触れることを通して、町民自らが人格を陶冶するとともに生涯にわたって自分らしくいきっていくことを主観的に実感できる教育環境

陶冶（とうや）＝人の生まれ持った資質や才能を円満に発達させること



01 協議事項 第3期安平町子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性

▶どのような計画書にするか

現計画) 第2次安平町子ども子育て支援事業計画 目次

目次

第1章 計画策定にあたって

第2章 子どもを取り巻く環境

第3章 計画策定の考え方 (基本理念、支援項目、施策体系)

第4章 幼児期の学校教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業

- 1 幼児期の学校教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供区域の設定
- 2 幼児期の学校教育・保育の必要想定人数、提供体制の確保の内容及びその実施時期
- 3 地域子ども・子育て支援事業の必要想定人数、提供体制の確保の内容及びその実施時期
- 4 子ども・子育て支援給付に係る教育・保育の一体的提供及び当該教育・保育の推進に関する体制の確保等の内容
- 5 安平町ならではの「遊び」を中心とした「子どもにやさしいまちづくり」の推進に関する体制の確保の内容

第5章 施策の展開 (28項目中、任意記載事項該当は3項目)

第6章 計画の推進に向けて (推進体制、計画の進行管理)

資料



必須記載事項

事業量の設定や確保方策に関する内容を記載



任意記載事項

基本的には現行の次世代育成支援を踏襲することで、切れ目のない施策展開を検討する。
また、町が重点的に取り組む項目についても記載

01 協議事項 第3期安平町子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性

▶どのような計画書にするか

現計画) 第2次安平町子ども子育て支援事業計画 目次

目次

第1章 計画策定にあたって

・はじめに～策定の考え方などは生涯学習計画側と統合

第2章 子どもを取り巻く環境

第3章 計画策定の考え方(基本理念、支援項目、施策体系)

・必須記載事項については、一部資料編などで整理を検討

1 幼児期の学校教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供区域の設定

2 幼児期の学校教育・保育の必要想定人数、提供体制の確保の内容及びその実施時期

3 地域子ども・子育て支援事業の必要想定人数、提供体制の確保の内容及びその実施時期

・施策の展開(任意記載事項)は、基本的に総合計画と同様

4 児童手当の支給(給付)に付随して、児童・子育て支援の推進に関する体制の確保の内容及びその実施時期

5 安平町ならではの「遊び」を中心とした「子どもにやさしいまちづくり」の推進に関する体制の確保の内容及びその実施時期

第5章 施策の展開(28項目中、任意記載事項該当は5項目)

第6章 計画の推進に向けて(推進体制、計画の進行管理)

資料

必須記載事項

基本的には現行の次世代育成支援を踏襲することで、切れ目のない施策展開を検討する。
また、町が重点的に取り組む項目についても記載

02 報告事項 子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）進捗報告

- ▶6.1 こども環境学会への登壇
- ▶6.25 CFCI委員会（オンライン）
- ▶6月～ 早来学園・追分小中学校の総合的な学習の時間
- ▶8.5 あびらCFCI研修会
- ▶8.22 あびら教育まちづくり100人会議（早来地区）
- ▶9.3 早来学園 ルールメイキングプロジェクト始動
- ▶10.1 山田LPM着任（こどもにやさしいまちづくりプロジェクト始動準備）
- ▶10.30 あびら教育まちづくり100人会議（追分地区）

このほか、子どもを対象としたアンケートや議題を取扱うような拡がりも

02 報告事項 子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）進捗報告

早来学園・追分小中学校の総合的な学習の時間

早来学園

プロジェクト1_防災チーム

協働者：総務課 松尾さん・副島さん
9年生と一緒に町民の防災意識を高めるためのものやイベントを作りたい！

アクション①：防災ポスター
生徒たちが参加型ポスターを作成し、町内4か所に設置。
まなびおのどこかにもあるよ！！

アクション②：防災ゲーム作り
小学生向けに2種類のゲームを開発。
はやきた学童保育ONESTEPにて、小1～4の子どもたちとゲームを実施！



プロジェクト2_CFCIチーム

協働者：教育委員会 笹山さん
9年生と一緒に
大人も子どもも一緒に対話できる
“最高にオモシロイ会議”について考えたい！

アクション：対話の場の研究&提案
まずは自分たちが対話を導く
ファシリテーターになるべく研究。
研究成果を学校の先生やまちの人に
対話の場を体験してもらい、提案！



早来学園

プロジェクト3_まなびおチーム

協働者：まなびお 谷口さん
9年生と一緒にまなびおの利用者を
増やす方法を考えたい！

アクション①：高齢者イベント
高齢者の方の利用のきっかけをつくるため、
ふれあいイベントを実施！

アクション②：看板&ポスター作り
利用者が迷わないように看板を作成！
利用のルールポスターも設置！



プロジェクト4_富門華会チーム

協働者：富門華会 矢農さん
9年生と一緒に
障害のある方の輝ける場を作りたい！

アクション：ライブ&障害理解イベント
視覚障がいのある方がメンバーのバンド
「スマイル4beat」をお呼びして
ライブイベントを実施！
障害のある方とふれあう体験コンテンツも用意！



追分中学校

プロジェクト1_こま猫屋チーム

協働者：こま猫屋 鳥越さん
活動の広報が苦手なのが困りごと。中学生の
アイデアとパワーをかせてほしい！

アクション①：チラシ作成&配布
こま猫屋さんが行うイベントのチラシを作成。
町内の施設や小中学校に配って宣伝！

アクション②：イベント準備
イベントで使う風鈴の準備をお手伝い。
当日の運営も、有志メンバーでお手伝いしました！



プロジェクト2_ENTRANCEチーム

協働者：ENTRANCE 東條さん
もっと多世代が使いやすい施設にしたい。
町民の声を集めるお手伝いをしてほしい！

アクション：ヒアリング&設計図作成
小中学生にはアンケートを実施し、高齢者の方には直接
お話を伺い、町民の意見を収集。
集まった意見をもとに設計図を作成しました！



02 報告事項 子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）進捗報告

あびらCFCI研修会 8月5日

対象：安平町内教育関係者、安平町職員（54名の参加あり）

講師：フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、こども家庭庁委託事業「こども意見ファシリテーター養成講座」を受託し、講座内容の作成・講師を担当

- 目的：
- ・ 子ども権利について理解を深めること
 - ・ 特に子どもの意見聴取の重要性について理解を深めること
 - ・ ファシリテーションスキルの習得・理解



02 報告事項 子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）進捗報告

早来学園 ルールメイキングプロジェクト始動

【校内生活分科会】

- ・ タブレット使用ルール
(遊ぶ人がいるから制限も制限が多い)
- ・ 5・6年生授業時間
(50分授業になることで、休み時間が少ない)



【イベント分科会】 新規イベント立ち上げに向けた話し合い活動

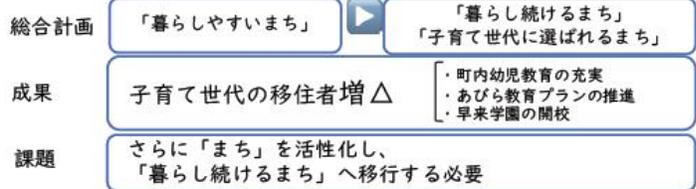
- ・ アートフェスティバル、スノーフェスティバル
クリスマス会、全校お楽しみ会、学校かくれんぼ など



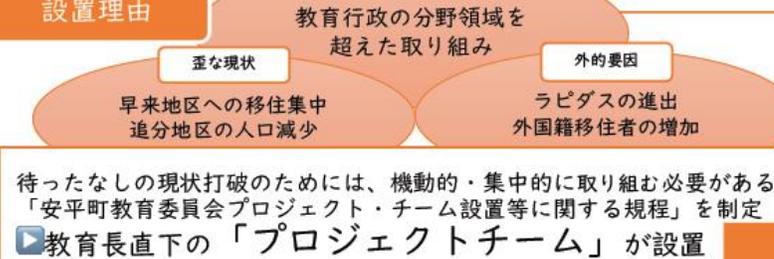
02 報告事項 子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）進捗報告

安平町 「子どもにやさしいまちづくり」プロジェクト

安平町をとりまく背景



設置理由



プロジェクトチーム

- LPMをプロジェクトのチームリーダーとした組織
- 地域側のCFCIラインと学校側のCREラインの2系統
- 教育指導グループが行政として両ラインを横断的にサポート
- 教育委員会配属の地域おこし協力隊はすべてチームに配属
- 外部協力メンバーと連携協働を進める

メンバー

- ①地域プロジェクトマネージャー
- ②地域おこし協力隊（教育委員会配属）
- ③任期付き職員（教育委員会配置）
- ④行政職員
- ⑤外部協力メンバー

※CREChild Rights Education (CRE) 子どもの権利を大切に教育

業務範囲（スコープ）

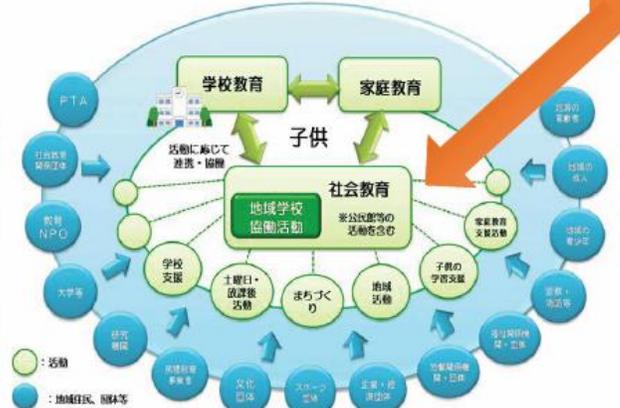
プロジェクトの範囲

- 生涯学習計画に記載されている分野および領域に関わるもの
 - 上記に関わる各課の個別計画等に関するもの（連携協働）
- ※他課との連携協働はプロジェクトの目的として合致する場合

※プロジェクトチームは下記の地域学校協働本部を軌道に乗せる主体も担う。

地域学校協働活動の概念図

より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成。



プロジェクトの目的

- ◎子育て・教育を核とした地域活性化
子育て・教育分野で、地域や自身の課題・困難に対し、他者と協働し自らの選択と行動で道を切り拓く大人を増やす。
- ◎あびら教育プランをきっかけとした「社会に開かれた教育課程」と「生涯学習社会」の実現
学校や地域において、子どもや大人が自分の所属するコミュニティや自身の課題・困難に対し、他者と協働し自らの選択と行動によって道を切り拓く経験をする機会をつくる。

目標

- ①学校運営協議会の活性化
- ②地域学校協働本部の運営と活性化
- ③町立学校の魅力化
- ④CFCIの普及と実践
- ⑤社会課題解決へ向けた民間活動および住民主体による取り組み
- ⑥産前産後および幼年期の子育て環境の充実

目指す成果（アウトカム）

- 『子どもが育つまち』の実現
- ◎暮らしやすいまち、暮らし続けるまちを主体的につくる大人が増え、市民活動が活性化する。
 - ◎公教育の魅力が高まり、町全体に子育て世代の移住と出生数が増える。
 - ◎公教育が充実し、多世代にわたって自分らしく生きる町民が増え、福祉ニーズが減少する。
- ※公教育＝学校教育、社会教育、子育て

<課題解決の方向性>

自らの選択と行動で道を切り拓く大人を支援



安平町で挑戦する大人たち

その姿を子どもたちが見る

- 学校や地域で子どもたちが同様の経験を積み機会を提供
- 子どもと大人、学校と地域がつながり、まち全体が活性化



安平町で育つ子どもたち

CFCI※の理念を基盤に

※Child Friendly Cities Initiative＝「子どもにやさしいまちづくり事業」のこと。
子どもにやさしいまちでは、子どもたちがまちの活動に活発に参加し、彼らの声や意見が考慮され、まちの決定や手続きに反映されることが重要と位置づけています。安平町は「子どもにやさしいまちづくり」を「子どもがあたり前に意見できるまちづくり」、「子どもたちが安心して遊べるまちづくり」と捉え、子どもたちが主人公のまちを目指していきます。

業務推進体制

- ・地域・行政・民間（専門家含む）に、さらに学校・こども園を加えることで、子育て・教育全般にわたって取り組めるようにする。
- ・学校を設置する行政、学校を支える地域、各領域で事業推進力を持つ民間、が参画し、チャレンジし合い、支え合う水平方向の体制で推進する。
- ・地域プロジェクトチームを中心に地域おこし協力隊をプレイヤーとした「プロジェクトチーム」が右図の連携協働体制のもと、本プロジェクトを推進していく。



03 委員発議

別資料により説明

04 その他 こどもまんなか応援サポーター宣言

こどもまんなか応援サポーターについて

↳ こどもたちのために何が最も良いことかを常に考え、こどもたちが健やかで幸せに成長できる社会を実現するという「こどもまんなか宣言」の趣旨に賛同し、自らもアクションに取り組む個人、団体・企業、自治体等のこと
参加するには、申請や届出等の手続きは不要。SNSで「#こどもまんなかやってみた」をつけて発信をすること。

本日の子ども子育て会議において、
「こどもまんなか応援サポーター宣言」を行い
委員の皆さんと一緒に写真撮影を行います！！

その後、町のインスタグラムにて発信します。

こども
まんなか





おうえん
こどもまんなか応援
せんげん
サポーター宣言

安平町は、こどもたちのために何がもっともよいことを常に
考え、こどもたちが健やかで幸せに成長できるような社会を
実現するという「こどもまんなか宣言」の趣旨に賛同し
こどもまんなか応援サポーターとして「子どもにやさしいまち
づくり」をより一層進めていくことを宣言します

令和6年11月1日
安平町長 及川 秀一郎

安平町

こども

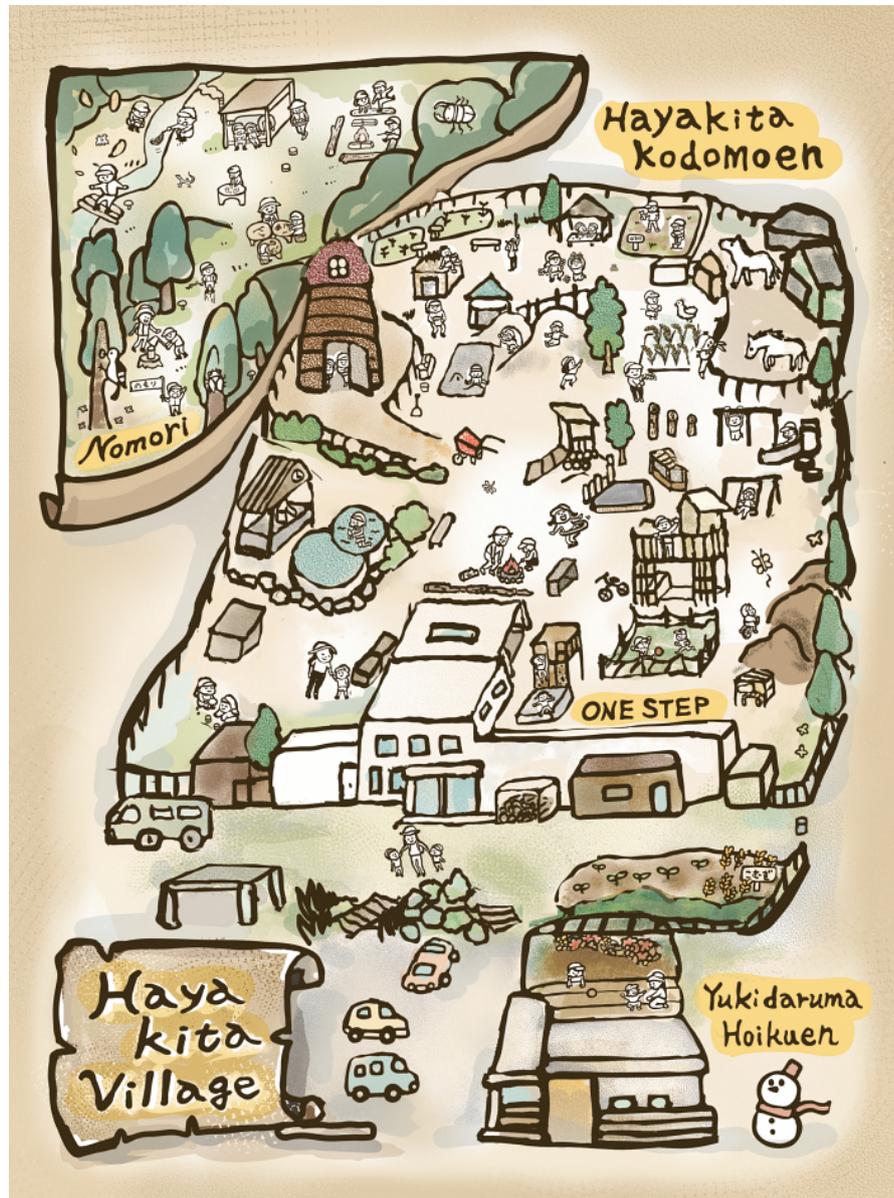
まんなか

応援サポーター宣言

Hayakita Village

はやきたビレッジ

現状と課題

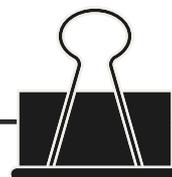


はやきた子ども園・ゆきだるま保育園・ONESTEPはやきたを一体的に運営。地域みんなが繋がる場として今年、保護者や職員と「はやきたビレッジ」（通称）と名付けました。

はやきた子ども園/はやきた児童センター/
はやきたゆきだるま保育園
統括園長 福田 剛

🌐 <https://hayakita-kodomoen.jp>

✉ hayakitako@yahoo.co.jp



01

取り組み状況

つながり

学びのつながり、育ちのつながり、地域とのつながりも大切に活動を進めています。早来学園や地域の団体など、日常からさまざまな関わりを持つことにより、親しみ、慈しみ、労り、楽しみ、笑い、共に愛情を育んでいく姿が見られます。子どもたちに将来どんな社会をつかって欲しいか、そんなメッセージも込めながら活動しています。自らを生き、一人一人がかけがえの無い存在として大切にされ、支え合い、優しさに溢れた場所を目指して。



季節を感じる

秋には秋の楽しみが。朝晩の冷たい空気を感じながら紅葉や味覚を楽しむ。五感をフルに生かして過ごす子どもたち。日々の作品を園全体に展示するアート展も行います。ぜひお越しください。



日 程：11月5日（月）～11月12日（火）

時 間：9時～14時（一般開放）

場 所：はやきた子ども園内・園庭
ゆきだるま保育園内

申 込：不要

正面玄関からお入りください。

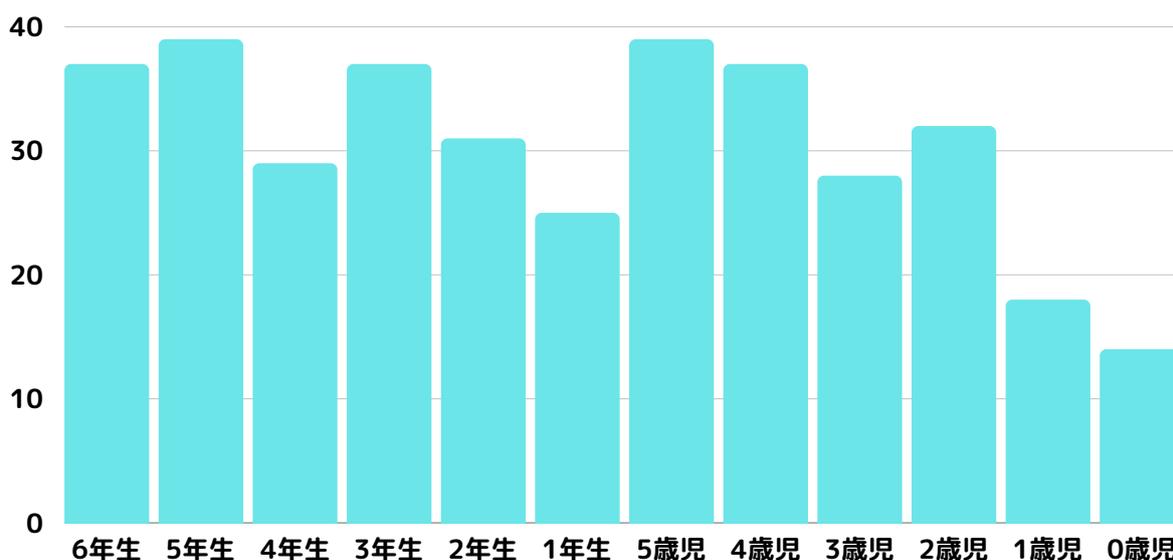


02

少子化の状況

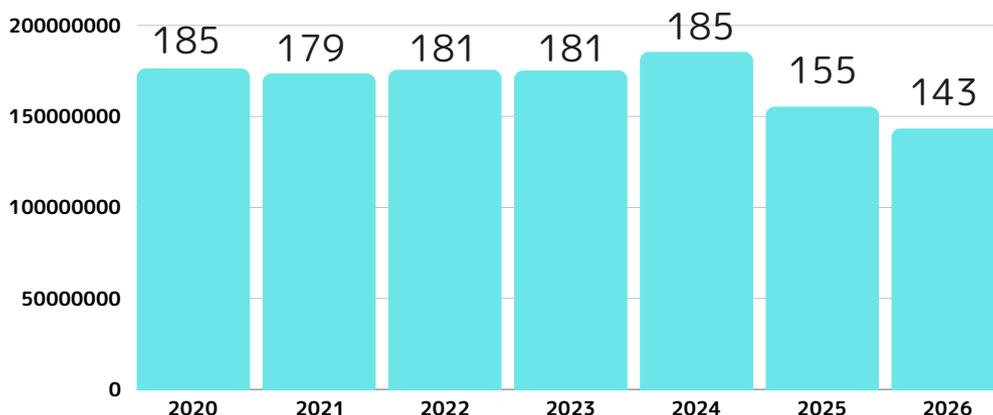
出生数

震災後、出生数は30～40を推移し、安平町の教育の魅力化もあり移住者も増え、今年度の入所数は過去最高となっている（はや子184名、ゆき保14名）コロナの影響か一昨年から出生数が急減。今年度の出生数は回復見込みだが、園児数の増減により人材確保が困難になる状況が予想される



給付費

入所児童数の減少により給付費も減少。今後は移住等で未満児の増減が見込まれる中、安定的な受け入れを行うための職員を確保するための運営費維持が課題となっている。





03

検討課題

玄関前安全対策

玄関を出てすぐに、舗装スペースがあり、駐車場に向かう流れになっている。玄関と駐車場の間に柵がないため、園児が直接駐車場に出たり、不審者が近づきやすい状況になっている。ゆき保も含め玄関前の柵の設置を検討している。



玄関前は保護者の交流の場にもなっており子どもたちが遊ぶ姿も。



顔認証での開錠だが空いていると直接駐車場につながる。園児が園外に出してしまう危険性も。

通報システム

移住者で挙動不審な人物やDVで子どもを追って来町するようなケースが増えてきており、園内の防犯カメラでの確認や不審と思われる方に質問をするケースもある。現在、有事の際は電話での通報となっているが、事務員を玄関が確認できる位置に配置したこともあり、警察等への迅速な通報のための防犯システムの導入を検討している。

居場所確保

来年度の1年生が44名予定となっており、児童センター（放課後クラブ）の利用者の更なる増加が見込まれる。支援を必要とする児童も多く、受け入れ場所と職員を確保しなければ利用制限もやむを得ない状況が考えられる。

